

「PENTAS YAMANASHI」は山梨県立

大学

事業

社会

ラム

存

い

生

ブ

第

な

多

て、

ンジングな学びのコミュニティをー出し

ていきます。

PENTAS magazine



P

E

N

T

A

3

実践的な知性を育む

PENTAS YAMANASHI

5つの実践プログラム

予測不可能な時代を生き抜く知性を養うために、PENTASでは5つの教育プログラムを用意しています。理論と実践、私と社会のあいだを行き来する学びが、持続可能な社会をつくる実践知を育みます。自身の興味関心と社会のニーズが重なる領域で問いを深めることで、自らが身につけたい知識や技能を効果的に習得し、「私だけの創造性」と出会うことができるでしょう。

① 観光高度化人材育成プログラム

観光の高度化を担える人材育成を目的に、地域資源の多面的な活用方法を学び、自然文化資本を用いた価値創造の力を身につけます。

- * 地域資源を活用した先進事例の紹介
- * ワイン県ならではのワイン関連科目
- * 自然環境のマネタイズ手法を学び、自然文化からの価値創造を図る
- * 観光業で活かせる語学力とホスピタリティマインドの醸成

② 地域づくり加速化人材育成プログラム

地域における社会変革を担う人材育成を目的に、対話や調査企画などの他者と共に新たな価値を創造する実践力を養います。

- * 高い志をもった公務員育成
- * 柔軟な思考力と実践力をもった人材の育成
- * 地域の課題を発掘する手法の習得
- * 実践的な企画立案能力の醸成

③ ビジネス構想力・経営マインド醸成プログラム

県の基幹産業を支える人材の育成を目的に、新しいビジネスを構想する力や経営マインドの醸成を図ります。

- * 企業がチャレンジしている経営革新の紹介
- * 事業計画の作成やイノベーション創造までの実践的手法
- * トレンド予測やブランディング等、ビジネス構想力の醸成

④ 多文化共生対応人材育成プログラム

医療・福祉・教育の現場の国際化・多文化化の課題を解決できる人材の育成を目的に、多文化社会における協働・共生の方法を学びます。

- * 多文化共生の現場を訪問
- * 多様な背景をもつ人々とのコミュニケーション力の醸成
- * 芸術をとおした多様な人々との協働の体験
- * 多文化化する保健・医療・福祉現場で活躍できる人材育成

⑤ 次代を担うアントレプレナー養成プログラム

ビジネスの手法で社会課題を解決できる起業家精神の養成を目指し、学生と社会人が相互に学び合い、新たな視点で事業を構想できる場を生み出していきます。

- * 起業家（実務家教員）による実践的な授業
- * 世界で通用するビジネススキルの獲得（山形大学アントレプレナーシップ育成プログラムの活用）
- * ビジネスプランコンテストへの出場とマルチステークホルダーによるメンタリング



PENTAS
をあらわす
キーワード

「PENTAS YAMANASHI」は山梨県立大学を中心に、山梨大学・山梨英和大学・事業協働機関が協力して提供する学生と社会人の垣根を超えた実践的教育プログラムです。環境の変化がめまぐるしく、既存の価値観やビジネスモデルが通用しない予測不可能な時代を、クリエイティブに生き抜く実践知の学び場を提供します。

プログラムを担当するのは山梨の教育を第一線で担う大学教員と、現場経験豊富な実務家教員。

多彩な専門家と学び合える講義をとおして、学生・社会人の垣根を超えたチャレンジングな学びのコミュニティを生み出していきます。

*「PENTAS」は夏に星形の花を無数に咲かせる常緑性の宿根草。「希望が叶う」「願いごと」「博愛」という花言葉のように、受講生の皆さんが山梨の地からそれぞれの希望を叶えていく未来を願って、この名称がつけられました。

しなやかな実践知

「実践知」とは、現場で臨機応変に状況を把握して的確な判断をくだす力のこと。変化のめまぐるしい時代において、従来の常識に則っただけの知識はどんどん通用しなくなってきています。

自分の頭と体で問題を捉えて、次の一步を踏み出す。現状を問い続ける視点を持ちながら、自分の感性を信じて自由に未来を描く。そんなマニユアル化のできない「しなやかさ」こそが、PENTAS が育みたい知性です。

PENTAS は地域の現場と結びついた実践的な教育が魅力の一つです。専門知識を習得しながら、その力を実際の現場で検証することができます。さまざまな文化や社会課題に直に触れ、経験を積み重ねることでしか得られない独自のセンスを磨いてください。社会に出てからでは許されない失敗も、ここでは大切な学びのひとつです。

これからの創造力

2023年はこれまで人間が担っていたイラストや物語を、AI（人工知能）が生み出してしまいう時代です。方程式を素早く解いたり、膨大な情報から確からしい答えを導き出す仕事は、今や人間だけの特権ではありません。今後は急速に発達する情報技術によって多くの仕事がなくなるとも言われています。問題解決の担い手がAI化していくとすれば、これからの人間の役割はどうなるのでしょうか。

その一つは、**既存の価値観や常識を更新するための「問題設定」の力**にあります。既存のルールや慣例に従うだけでなく、ルールを作り出したり、状況にあわせて改変する。新しい技術の使い道を、あるべき方向へと切り替える。

そのように問題の前提を問いなおすには、アートとサイエンスの精神が重要になります。アートとは「自然を模範し、美の精神で未来を創造する力」、サイエンスとは「物事の本質を突き詰め、一般化する力」。誰かに価値判断を委ねるのではなく、自分の価値観に基づいた曇りなき目を養うことが大切です。

誰かによって押し付けられたイメージに惑わされず、真の豊かさや幸せを追求できるビュアな人間を目指してください。A or Bの単純な二項対立を抜け出し、その**〈あいだ〉にある価値を想像する力**を身につける場所がPENTASです。

山梨という場所

近年、地方を舞台にその土地の風土や文化を活かして活躍するクリエイターや起業家が注目されています。長い時間をかけて育まれた地域独自の個性が、新しい感性を刺激するのかもしれない。

山梨という場所は、独自の伝統文化を育みながら、甲斐（交い）の国としてさまざまな外部の価値観を取り込んで発展してきました。今では世界が注目するような地域産業も多数存在しています。そんな可能性に満ちた山梨の未来を引っ張っていくのは、いまここを生きる私たちです。数年後のリニア開通を見据えた時、山梨らしい独自の魅力を全国へと拡げていく準備が必要です。かつて甲州財閥と呼ばれた先駆者たちは、山梨の資源を全国へと広げ、都市圏の公共インフラづくりをとおして近代日本の礎を築きました。

いま山梨がもつ固有の強みはどこにあるのでしょうか。この土地を新たな視点から捉えなおし、**ここでしか描けない未来**を想像してみましょう。PENTASでは受講生の方々と共に、単なる学びでは終わらない、全国へと展開できるアイデアや事業を生み出していきたいと考えています。

PENTAS TALK

ローカルリーダーを 育む学び



株式会社GHIBLI代表取締役

坪内 知佳

山梨県立大学
国際政策学部教授、
PENTAS YAMANASHI
教育プログラム長

× 杉山 歩

株式会社 hototo 代表取締役
山梨県立大学特任教授

× 水上 篤

2022年10月から放送された
ドラマ『ファーストペンギン!』（日本テレビ系）は、
山口県萩市・萩大島を舞台に、
漁師のボスとなった女性が数々の困難を乗り越えていく
実話に基づいたサクセスストーリー。

今回はその主人公のモデルとなった
株式会社 GHIBLI 代表取締役の坪内知佳さんと共に、
PENTAS と地域づくりのこれからについて議論をしました。

日本の水産業を牽引する若きリーダーが考える
〈地方の未来を拓く力〉とは？

正しいひとつの答えがない時代を生き抜くための
「実践知」の育みかたを問いました。



GUEST 坪内 知佳 つばうち ちか

1986年福井県生まれ。大学を中退後、萩市へ移住。萩市内で翻訳とコンサルティング業務を行う事務所を設立する。2010年12年に漁師たちとの出会いから、知見のなかった漁業の世界に飛び込み、2011年3月に約60人の漁業者をまとめ、船団丸ブランド第一号となる「萩大島船団丸」を設立し代表に就任。「船団丸」ブランドはメディア等でも取り上げられ、全国から漁業者が集い、県境を越えて海洋環境保全にも取り組んでいる。

コロナ禍で行動制限の多い2021年からは時間場所を問わず、漁師と一緒に世界のリアルな文化・食習慣を知ることができるオンライン旅行サービス「The world alliance2021」も展開する。



『ファーストペンギン!』
坪内知佳 著（講談社 2022）

諦めずにやり抜く力が、
未来への道筋を示す

杉山：今日は日本の水産業を牽引されている坪内さんに、これからの社会を生き抜く知恵や力についてお伺いできればと思っています。複雑で予想不可能な現代社会には、どのようなスキルが必要だと思われますか。

坪内：ゴールに向かって挑み続ける力でしょうか。近ごろの子どもに接すると、失敗して傷つくことを恐れるマインドが染みついていると感じるんですよ。100段の階段を一度も躓くことなく最上階まで到達するのはどんな人でも難しい。大切なのは、計画を立てて一歩ずつ持久走を走り抜く力ではないでしょうか。

杉山：ゴールまでの過程がイメージできず、自分がいま何段階目にいるのかを把握できていないのかもしれないね。

坪内：SNSで流れてくるのは、100段階目まで登りつめた人たちの華やかな情報ばかりです。ゴールに行き着くまでの紆余曲折は表から見えないですからね。

水上：「グリッド力」とも言われるやり抜く力の重要性ですね。坪内さんはどのようにしてその持久力を身につけたのでしょうか。

坪内：強いというなら、常に初心を忘れないように気をつけることでしょうか。私は経験も知識も資金もない状況が0段階だったので、くじけそうになっても「あの時よりはマシだな」と思い地道に進んできました。すでに何年もの経験値がある人と最初から同等になれるはずがありません。それを

理解して、謙虚に進んでいけばいいんです。

水上：現場ではさまざまな試練があったかと思いますが、それでも一段ずつ登り続けてきたからこそ今があるんですね。

杉山：地域のコミュニティにはさまざまな世代があります。特に上の世代は変化を恐れて現状を維持したがる傾向がありますよね。頑として揺るがない反対勢力があって、うまく前に進めないときはどうしたらいいんでしょう。

坪内：私はめげずに説得を続けます。いまや全国各地の漁村で事業を展開していますが、「自分が生まれ育った土地を守って子孫に繋げたい」という思いはどこの人でも同じです。土地の存続という共通のゴールを明確にして、そこまでの道筋を示し続ければみんなが同じ方向に向かうことができるはずです。

水上：人間って現状を変えずにラクをしたい動物だと思うんです。それに勇気は年を重ねるごとに減っていく。だからこそ、諦めないのが大事なんです。多くの人が簡単に諦めてしまうからこそ、諦めないだけで強いんです。

坪内：昔と比べて叱られる機会が少ない今の子どもたちは、失敗に対する負のイメージを強く抱えています。登り続けるのが難しければ、立ち止まったり、引き返しても構わないのです。準備をしてまた歩き出せばいい。物事を前向きに柔軟に捉える力は、大学生のうちに身につけられるとよいですね。

答えのない探究を支援する
振れ幅のある教育を

杉山：そのために大学はどのような教育をするべきでしょうか。

坪内：高校までは1+1=2のような絶対的に正しい答えを学びますが、社会では答えのない問題を考える力こそが大切です。大学ではまず自分の意見を持つことの大切さを意識づける必要があると思います。

杉山：明確な答えがある状況に慣れすぎると、間違えるのが怖くなるんでしょうね。

水上：大人でも成功事例や必勝法をすぐに知りたがるけれど、答えがわからない中で探求を続けることが大事です。教える側も答えありきの教育ではなくて、生徒と共に学んでいく姿勢をもつべきかもしれませんね。

坪内：学生さんは、先生が用意したものではなく、自己責任でなにかを実践する機会をつくってみてほしいです。自分がやってみたいことを見つけて、必要な資金を調達して、プロジェクトを進めるような勢いがあっても良いのではないのでしょうか。

杉山：大学の講義も、ただ話を聞くだけの“探求ごっこ”にならないような設計の必要性を感じています。アウトプットできる環境や資源がすぐ近くにあるという点は、地方大学のメリットかもしれません。

坪内：経験は強みになりますが、何を豊かだと思えるかは、その人次第です。こちらが何を用意するでもなく学ぶ人もいれば、何を与えてもスルーしてしまう人もいます。経験をいかに自分ごととして捉えてもらえるかが鍵になりそうです。

杉山：現状だとPENTASの思いや大切

さが響いているのは全体の約2割ほどという感触があります。より多くの人に学びを自分ごと化してもらうにはどうすればいいでしょうか。

水上：学生数が少なく、先生と学生との距離が近いのは地方大学のメリットです。パーソナルトレーニングのように、一人ひとりと向き合ったアドバイスができる仕組みがあればよい気がします。

坪内：学部やクラスにとらわれずに、困っている子にすぐ手を差し伸べられて、先生との繋がりが実感できるコミュニティをつくれるといいですね。

水上：そういった母性的な優しさで大学生を見守りつつ、父性的な厳しさに揉まれる経験も必要でしょう。例えば漁師は、海という緩急の激しい自然を相手にしているからこそ、野生的な人間としての魅力を持ち合わせています。守られた環境の外で触れる強い刺激が、人間を変えることもあります。

杉山：どちらの方向にも振れ幅のある教育が良いですよ。TOEICの点数が高ければ偉い、というようなキャリア指導だけではなく、自分本来の生き方を見つける機会を提供してい

なければなりませんね。

水上：先日、岡本太郎の太陽の塔を見たときに、自分の〈爆発力〉の弱さを感じました。アート作品や自然のもつ強靱な生命力に出会ったとき、人は傷ついたり感動するわけです。そういう“異物”との出会いが大学で実現できると面白い。PENTASはその可能性を秘めています。

学びと仕事をアップデートする
「価値」へのまなざし

杉山：大学での学びの意義があまり響かない理由のひとつには、学生のほとんどがバイト中心の生活を送っているからだと思います。言われたことをやるだけのバイトは、ものごとを考えない癖がついてしまう。

坪内：そのまま就職活動に突入すると、安定思考でとりあえずの職場を選び、つまらない会社で働くことになりそうですね。

杉山：「どうせやりたくない仕事なら、少しでも給料が高いところが良い」というバイトの延長線で就職先を選ぶのは大変もったいないですよ。

坪内：何のために働くのか？ お金を稼ぐためだけに働く人生で良いのか？ を自分に問うてみてほしいです。

水上：稼ぎだけを目的としたロボットのようなバイトをするのではなく、自分の未来にプラスになるバイトをするべきだと思います。

坪内：私が学生のときのマイルールは、常に3つ以上のバイトを掛け持ちすることでした。社会人になってからのミスは損失が大きいかもしいけれど、学生バイトという立場はリスクを負わずにいろんな挑戦ができる。そういう前向きな発想は大切ですね。

水上：見る・聞くだけでものごとを理解できるタイプと、実際にやってみて分かるタイプ、人間にはこの2パターンがいます。でも、いろいろな仕事をちょっとずつ体験できるのは大学生のうちだけですし、どちらのタイプにとっても経験からの学びは大切です。

坪内：私の営業力はバイト時代に物を売っていたおかげで身につきました。マニュアル通りに説明しても買ってもらえないので、お客様にあった声のかけ方などを自分なりに分析していく。自分で試行錯誤するプロセスが大切です。

杉山：坪内さんにとっての働く意味はなんでしょうか。

坪内：私はお金やキャリアよりも、人に好かれて覚えていてもらえるような仕事をする方が、人生豊かだと思っています。

水上：お金でできることって案外少ないんですよ。漁師の方にとっても、海から望む朝焼けや、大量の魚が



獲れた時の高揚感は、貨幣価値には替えられない経験価値のほうです。

坪内：お金はあくまでも結果です。私の場合は、自分の心がハッピーで満たされる仕事に熱中しているうちに、後からお金がついてきました。

水上：坪内さんの仕事は、ずっと未来まで続いていく日本の景色を作っていることに大きな価値があるのだと思います。景色は時間を超えて残っていくわけですから。

杉山：なにをやるかは人それぞれ違っていい。自分だけの価値を見つけて、行動することが大切になるわけですね。PENTASは、そのきっかけにあふれている場所と言えるかもしれません。

水上：お金という指標はわかりやすい。でも、すべてをコストパフォーマンスで考えていたら面白くありません。これからは深さこそが味になる。学生の皆さんには、人間としての魅力を磨く学びを大事にしてもらいたいです。

次世代へと受け継ぐべき 大人の姿

杉山：坪内さんは今後どのような事業を展開していかれるのでしょうか。

坪内：一次産業を縦割りするのではなくて、農業・林業・水産業すべての分野を47都道府県で展開したいと思っています。もちろん私が生きている間には到底やりきれないので、次世代の仲間に活動を受け継いでいく必要があります。日本の未来を変えるためには、何人もの人たちが時間をかけて取り組みを進めていかなければいけません。



水上：僕はものづくりが大好きなんですけど、職人さんの作品に触れることで、その背景や歴史、情熱を受けとることがよくあります。坪内さんの地域づくりも、未来に向かうストーリーを含めた魅力がありますよね。

坪内：若いからとか女だからとかは関係なくて、ひとりの人間として気づいたことはやるべきですよね。昔はこうだったから、という現状維持は発展を妨げます。仕事も子育てでもある中ですが、体は1つしかないんで、常に最善の道を選びながら一歩ずつ進んでいきたいです。

杉山：先ほど話した「やり続ける力」にも通ずるであろう、その原動力はどこから生まれるのでしょうか。

坪内：「幼い頃に素敵な大人と出会いたかった」という思いでしょうか。身に覚えのないことで怒鳴りつけられたり、上から押さえつけられるような教育を受けてきたので、自分は絶対にそうはなるまいという反骨心があり

ました。学生の皆さんはPENTASでいい先生に出会って、素敵な大人に成長してってほしいと思います。

水上：坪内さんのような大人が発する世界観に触れる機会が多いほど、人間性は磨かれていきます。大学も、面白い大人と繋がる機会を用意して、あるべき大人の姿を伝えていかなければなりませんね。地域で奮闘するリーダーには、Netflixに負けないドラマがあるわけですから。

実 際 に 学 ぶ だ 受 講 生 の 言 葉

①「観光実践マネジメント講座」「地域のチャレンジ1,2」

②「観光実践マネジメント講座」では、サービス業における高付加価値化とは何か、良い組織とはどのようなかについて、理論と実例を学びました。ゲスト講師の方々が仕事をすることで大切にされている考え方を知り、自身の考えや行動を見つめ直すきっかけを得ました。また、レポート課題に対するフィードバックを受けることで、徐々に、読み手に伝わるレポートが書けるようになったと思います。

「地域のチャレンジ1,2」では、山梨県を拠点に県内外で活躍されているゲスト講師のお話を伺い、山梨県の地域資源の魅力を再発見することができました。講義への参加を通して、行政や産業、教育など多面的な視点からまちづくりについて考える力がついたと思います。

岡村純佳さん

[3年] 山梨大学生命環境学部
地域社会システム学科

私はまちづくりに関心があります。大学での勉強や課外活動をする中で、自身にとって身近な地域が抱える課題とその可能性を知りました。そのような経験を通して、今後は地域の課題を解決したり、魅力度を向上させたりすることに関わり、まちづくりを通じて地域活性化に貢献したいと考えています。



①「ワークショップデザイン」

②「ワークショップデザイン」では、ワークショップの技術・姿勢について実践形式で学ぶことができます。実際に、山梨市の三富地区で地域活性化を考えるワークショップのファシリテーターを担当しました。この経験から、町づくりの主役となる地域住民を陰で支え、対話を促進する役割の大切さを実感しました。

授業で学んだ「立場や価値観が違う人との対話技術と心構え」は、留学中に母国語が違う人たちとグループワークを行う際にも役立ちました。

社会が複雑化し、人間関係が希薄になっていく現代こそ、問題解決に必要な対話の技術とその重要性について学ぶべきではないでしょうか。興味のある方はぜひ受講してみてください。

吉田 龍さん

[3年] 山梨県立大学国際政策学部
総合政策学科

今一番頑張っていることは外国語の勉強と安藤勝洋先生のゼミ活動です。安藤先生のゼミでは国際協力について勉強しています。関心があることは、社会的排除についてです。この社会問題について観光学の観点から勉強したいと思っています。



①「グローバルマインドとスキル」「多文化対応人材育成演習(教育)」「多文化共生の現場を歩く」「多文化共生地域課題2(多文化社会における対人援助/外国人と人権)」

② コロナ禍でオンライン授業が続く中、何か新しいことに挑戦したいと思い、友人の勧めでPENTASを受講しました。県立大学の学生や社会人との意見交換の中で、真剣に自分たちで山梨を変えようとしている姿や、常識にとらわれない考え方に触れた時間はとても新鮮なものでした。

グローバルマインドとスキルでは、自分の意見をもつこと、自主的に行動する力、多文化共生対応人材育成プログラムでは、協調性とコミュニケーション能力の大切さを学びました。これからもプログラムでできた人とのつながりを大切にしていきたいです。

松崎モニーク澄子さん

[4年] 山梨英和大学
人間文化学部 人間文化学科

いま頑張っていること: 学業、卒業論文、検定取得、ボランティア活動
関心があること: グローバルスタディーズ領域、グローバルイノベーション、英語、中国語、スペイン語、バイリンガル教育、文化・歴史



①「アイデア共創実践」「ネイチャーガイド演習1」「アントレプレナーシップとスキル」

② PENTASを受講してから、自分の視野がいかに狭かったかがよく分かりました。学部の枠に囚われていたことにも気づき、いい意味で自分の殻を破れた気がします。都会に出ずとも、山梨でグローバルに通じる講義を受けられるのは本当に貴重な経験です。

同じ講義を受けた他大学の人や高校生とは、現在も一緒にプロジェクトを進めており、新しいつながりや交友関係をもつことができました。来年度も受講したい科目が沢山あります。皆さんも是非PENTASに興味を持っていただけると嬉しいです。

神取寿宗さん

[3年] 山梨県立大学人間福祉学部
福祉コミュニティ学科

現在は福祉視点を持った卒論を書きつつ、アントレプレナー育成プログラムをはじめとした講義を受けることで2つの視点から幅広く物事を考えることに取り組んでいます。また、軽音部の部長も同時に務めているため趣味の音楽にも触れつつ学生生活を楽しまっています。最近では家でコーヒーを淹れながらゴロゴロする生活が至福です。



①「多文化共生地域課題2（多文化社会における対人援助／外国人と人権）」

② 私は講義の中で「人と人が出会うことは文化の出会いである」という言葉に感銘を受けました。

この講義では、現代日本における多文化共生の現実について、現場の方からお話をうかがいます。大学の中では知ることのない社会課題の現実を、多面的な視点から学ぶことができました。

また、PENTASは社会人の方も参加できるので、異なる背景を持つ人同士で考えを深めることが可能です。自分が知らなかった世界を知り、1人1人の中にある「文化」の魅力に気づけるのがPENTASの魅力です。

清水来夢さん

[3年] 山梨県立大学看護学部 看護学科



現在、私が力を入れて取り組んでいることは、国際保健医療演習の授業内で訪問するラオスの村に住んでいる人々への健康教育です。私はこれまでラオスを訪れたことがないためさまざまな不安がありますが、仲間と協力しながらPENTASの授業で学んだことを活かし、ラオスの医療について考えていきたいと思っています！

①「VUCA時代のキャリアレジリエンス」

② 私はこの講義を受講したことで、「面白い」と感じたらすぐに行動に移すようになり、今までとは全く違う景色を見られるようになりました。担当教員の水上先生が、甲府で生まれた新しいコミュニティ「BASHIKA村」を紹介してくださり、その後すぐに訪問。その出会いをとおして、自分が行動したからこそ見える景色があり、「頭」と「身体」の両方で理解したときに初めて、知識や技術が自分のものになることを体感しました。

先生やゲスト講師との会話を通じて、何かのキッカケやヒントを得る。そして自分なりのアクションを起こす、というところまでが学びの1セットだと感じています。

大竹涼さん

[4年] 山梨県立大学国際政策学部 国際コミュニケーション学科



最近は海釣りハマっています。自分が食べるものを自分で獲る。また、釣り場に来る地元の人たちと年齢関係なく他愛もない話をする。まるで、人類が自然と共生していた縄文時代のようなライフスタイルを送っています。釣りに限らず、原始的な行為の中に未来を創造するヒントがあると思っています。

①「イノベーション創造の基礎と実践」

② 受講前は難しくそうで緊張しましたが、イノベーション=技術革新だけでなく、個々が持つ意欲や日常の些細な疑問、願望もイノベーションの種であると学ぶことができました。自分たちの凝り固まった固定概念が覆されたように思います。ワークショップでは学生と社会人が混ざり合って、様々な考えや発見を発表したのですが、学生さんのプレゼンテーションは考え方が柔軟でとても面白かったです。社会人になって、「何かを学ぶ」という機会が減ってしまいましたが、PENTASの存在を知ることができ良かったです。来年もぜひ参加したいです！

旭陽電気株式会社

藤井友華さん

生産技術部（山梨英和大学出身）

船津七海さん

総務経理課（東京女子体育大学出身）



（藤井）製作図面等を紙面上に出力し、納期や制作先ごとに仕分け、製造現場へ生産指示を出すのが私の仕事です。製造工程の一番最初を担う、やりがいと責任の大きい仕事を任せていただいています。

（船津）広報担当として会社SNSやCM制作、信玄公祭りなどに携わっています。体育大学出身ということもあり、健康イベントにも関わっています。

①「まちづくりの思想と技術」 「地域のチャレンジ1」 「グローバルマインドとスキル」

② PENTASを通じて出会ったのは、自分自身を最大限に生かせる“何か”を持ち寄って、思い描く未来を仲間と共に創っている実践者の方々でした。その学びの中から、「地域や組織の一員として、今の自分が提供できるものは何か？」という問いが生まれ、卒業後の進路選択につながったと感じています。また、人との関係性が地域を動かすことを多くの実践者に教えていただきました。仕事で観光まちづくりに携わることになった今、事業を前に進め、継続していくうえで、地域からの共感がいかに大切かを痛感しています。地域と自分自身の現在地を捉えなおすためのヒントで溢れているのが、PENTASの魅力だと思います。

福田和さん

[2022年度卒業生] 山梨県立大学 国際政策学部 国際コミュニケーション学科



山梨市の秩父多摩甲斐国立公園エリアや、廃校となった小学校を拠点とした自然体験プログラムの体験設計に取り組む機会をいただき、展開の可能性を探っています。関心があること：暮らしの中の手仕事、森林・環境教育、ローカルガストロノミー、お腹を見せるストラテジー（岡ノ谷一夫先生）、第六感

① 担当講義の魅力

一流になるためには一流から学ぶのが一番早く、また実践を通して定着させることが重要です。本講義はインプット・アウトプット・アウトカムにこだわり、起業家教育で国内トップレベルの山形大学が構築したコンテンツを活用した座学と、生徒の皆さんが実現したいアイデアのブラッシュアップ & プレゼンテーションの2部構成で行います。自分のアイデアを実現するためのヒントを得られる点はとても魅力的かと思えます。

アントレプレナーシップは起業のみに必要な能力ではありません。皆さんの夢の実現に活きる時間になると思いますので、新しいアクションを起こしたい方や、同じような志を持った仲間と繋がりたい方はぜひ受講してみてください。

② 講義から得られる実践知は？

**自身の夢を実現するための
上質なインプット、
それを表現するアウトプット、
そのアウトカムを内省する力**

③ 講義はどんな人にオススメ？

起業を志す方はもちろんのこと、何かにチャレンジしたいけれど何をしたいかわからない、という方にお勧めです。

● ハマっているもの、興味あること

色々な方と関わる中で新しい発見をすることや事業を生んでいくことが好きなので、起業家や何かチャレンジしたいことがある方と話をしたり、具体的に応援をしていくことが趣味です。

ガイジョナリーパワー株式会社 代表取締役CEO
山梨県立大学 特任准教授

戸田達昭先生

多文化共生地域課題2

多文化社会における対人援助 / 外国人と人権

① 担当講義の魅力

多文化化・グローバル化するこれからの日本社会を生きていく上で学ぶべきことは一体何か、そしてその学びからわたしたちは何をつくり出していくのか。この問いを多文化共生領域の第一線で活躍する講師たちと共に考えていきます。講師は毎回違うメンバーが登場。日本における難民支援を行う弁護士、地域日本語教育を実践する日本語教師、地域社会で新しい活動を作り上げる社会企業家など。講師との対話を重視した講座に参加する中で、基盤となる知識の習得のみならず、社会の問題を独自の視点で捉える力を培っていきます。また受講者は講座に参加しつつ、身の回りにある社会的な問題を捉え、その問題を解決するプロジェクトを企画・発表していただきます。実践型の学びをととしてVUCA時代を自由に越境する術を培っていきましょう。

② 講義から得られる実践知は？

**多文化共生領域、
外国人支援領域における
社会問題を捉える独自の視点、
プロジェクトを企画・実行し、
振り返り、広く発表する力**

③ 講義はどんな人にオススメ？

多文化化する社会においてジェネラリストではなくスペシャリストとして活躍をしたい人。専門職として仕事をする中で、在住外国人への関わりが増え、どのように対応したらよいか不安に思う職業人。

● ハマっているもの、興味あること

ラグビー観戦。ラグビー日本代表のスローガンは2019年の「ONE TEAM」から新しく「OUR TEAM」になりました！体形も得意なこともそれぞれ違う多様な人たちが各ポジションで活躍し、チームでプレーするラグビーは多文化共生と相性がいい！と思っています。

新居みどり先生
NPO法人国際活動市民中心
コーディネーター



① 担当講義の魅力

皆さんは今週、買い物でされましたか？ その際、どのように支払いましたか？

支払ったツール自体はほぼ無価値なのに、お店の人はなぜ貴方を信用して商品・サービスを提供したのでしょうか？ 答えは簡単ではありませんが、とりあえず「日本銀行券（貨幣）の保証を背景に、それ相応の価値が擬制されているから」で、この貨幣が世界中に流通し私たちの経済社会の血液の役割を果たしています。

ところで、ユニクロのパンツとH&Mのパンツとでは、機能はほぼ変わらないのに微妙に価格が異なります。さらに、1千万円を子ども食堂に寄付して陰徳を示す人もいれば、同じ金額で贈収賄により罰せられる人もいます。何故このようなことが起こるのでしょうか。

ある時期、貨幣は金（gold）に紐づけられ、相当量の金との交換が保証されていました。今ではティッシュにもならない紙切れどころかサイバー空間上のデータに過ぎないのに、何故このような魔力を持つのでしょうか。この講義では、貨幣の本質を探り、金融制度とともに社会の様々な場面でどのように賢く使われ、あるいは残念な使い方をされてしまったのか、歴史と現実に基づき、皆さんのキャリアデザインに役立つ実践知を習得します。

金融リテラシー
向上講座

～お金の過去・現在・未来～

② 講義から得られる実践知は？

**価値の本質を捉える視点、
人生を豊かにする
賢いお金の使い方**



手塚 伸先生

山梨県立大学特任教授
(公財)やまなし産業支援機構理事

講義全般にわたり(株)山梨中央銀行に厚い(熱い)ご支援をいただいています。講義の企画や同行のネットワークを通じた様々な金融に携わる講師のご参画などをいただいています。また、第7～8回の講義は同行の金融資料館において、金融の歴史と現状について、豊富な資料を用いての体験学習も計画されています。多くの志ある方々のご参加を心からお待ちしています。

③ 講義はどんな人にオススメ？

金融機関を目指そうとする方々、金融関係のお仕事に従事している方々のみならず、金融の力を用いて何らかの事業を起こし社会に貢献したい方々にお勧めです。

● ハマっているもの、興味あること

雪原を自由に登り降り、冬・春の自然を楽しむことができるバックカントリー・スキーを楽しみます。テレマーカーンという、歩くのと同じ動作で特殊な加工を施したスキーを操り自在に雪原を歩きます。リフトや人間の混雑とは無縁で、雪面に残る兎や狐、カモシカなどの足跡を辿れば不思議な世界が見えてきます。

観光実践マネジメント講座

おもてなしマスター養成講座

日本ワイン歴史マスター養成講座

① 担当講義の魅力

「おもてなしマスター養成講座」の講師は、ホテル・リッツカールトン元日本支社長の高野登さん。おもてなし学の第一人者で、私のワイン友達。著書「サービスを越える瞬間」は60刷を数える大ベストセラーです。講座では「人と人との関わり合い」を原点に「おもてなし」を切り口として、ビジネスのポイントから生き方磨きまで…深く考えさせられます。

「観光実践マネジメント講座」の講師は、瀬戸川礼子さん。高野登さんのお仲間です。瀬戸川さんは経営ジャーナリストとして旅館の女将を取材し続けて30年。新聞に「女将さんの心」を連載していて、出版本も3冊目

なりました。講座では、現役の女将さんやクレーム対応のプロを招き、実践的な経営情報が満載となっています。

私自身が受け持つ「日本ワイン歴史マスター養成講座」はPENTASと共に生まれて3年。全国から聴講者が集まる、毎年満席の講座です。ソムリエも知らない本当の歴史を学びます。ブドウやワインの生産者からすこし興味のある方まで、日本ワインの未来を考えるとときに不可欠な情報がギュッと詰まっています。

③ 講義はどんな人にオススメ?

ホテルや飲食店などのサービス産業や、ワインビジネスに興味を持っている方。また、実際にビジネスをしている方々にもオススメです。



仲田道弘先生 山梨県立大学 特任教授 (公社)やまなし観光推進機構 理事長

② 講義から得られる実践知は?

おもてなし・経営・ワインの知識、ビジネス/個人として「次のステップに進むためのエクス」

グローバルマインドとスキル

① 担当講義の魅力

この講義は英語「を」学ぶのではなく英語「で」世界の教養を学びグローバルマインドを身につけ、自己分析・自己探究を通して自らの学びを発信するスキルを身につけることが目的です。英語を使って世界の教養を学び、山梨から見た世界、そして世界から見た山梨を再発見することで、日常の当たり前やこれまでの常識が覆される体験して頂きます。例えば世界の平均寿命について考える授業では、世界各国の過去200年の平均寿命と平均所得の変遷や世界から見た日本の立ち位置について学び、未来の山梨の少子高齢化問題に対する課題解決法について議論します。世界の迷信を学ぶ授業では、日本と世界の共通点を批判的に比較分析し、山梨特有の迷信や風習について宗教学的な観点から議論し、今後の迷信の在り方を創造します。日常では意識しないことを日本語と英語で学び議論し表現することで、世界中どこに行っても通用するマインドセットを獲得できると信じています。日本の学校教育で学ぶ学問としての英語ではなく、英語をツールに自分と世界を探究することで、語学や教養の先にある新しい世界に出逢えるはずです。

② 講義から得られる実践知は?

世界基準のマインドセット 山梨の当たり前を疑う批判的思考力

③ 講義はどんな人にオススメ?

山梨と世界で活躍したいと願う高校生・大学生はもちろん、今の自分に満足できず新しい価値観や視野を手に入れたいと願う山梨県内の老若男女が対象です。

●ハマっているもの、興味あること

言葉の不思議を紐解くことが趣味です。高校の時から15年以上、英単語帳にハマっていて人生の娯楽は英単語帳を読むこと・書くことで、これまで10冊以上の本を出版してきました。



嶋津幸樹先生 英語教育起業家

「政策づくりの技法」 「政策づくり実践演習」

① 担当講義の魅力

「新たな物の見方を得ることが出来た」「ロジカルな物の考え方が出来るようになった」などの感想を頂く「政策づくりの技法」と「政策づくり実践演習」。地方自治体のまちづくりの根幹である「政策(企画)業務」について、行政の政策担当者として必要な概念や知識、立案プロセスを学び、現場における政策立案の実戦力が身に付く講義です。「政策づくりの技法」では、正しい政策を立案実行するために必要な行政の基礎知識や考え方、企画政策の立案プロセスを学び、「政策づくり実践演習」では、実際に政策案(企画案)を作ります。講義は全てワークショップ形式で、受講者が自ら学び、考え、作業し、生み出すプロセスを辿ります。地方自治体職員を志望する学生は、演習で作成する企画書や政策案をエントリーシートや面接時に研修実績として活用できます。また、現職の行政職員が基本を学びなおす機会となります。元行政職員としてリアルな事例の紹介など、実際の行政現場の様子もお伝えできればと思います。

③ 講義はどんな人にオススメ?

地方自治体の職員を志望する方や企画政策の立案に関心のある方、現職の自治体職員で企画政策の立案実行についてスキルアップしたい方。

●ハマっているもの、興味あること

28年前に新車で購入した車を修理して、同じ車の愛好者の集まりに出かけています。古い車なのに、私の子供程に歳の離れた若い仲間も多く、元気を分けて頂いています。また、地域を楽しく盛り上げてくれる人材が増えるよう、まちづくりに関心のある若者や女性などを応援する、「南アルプスコミュニティ」という活動をしています。



保坂久先生 元南アルプス市役所総合政策部理事

●ハマっているもの、興味あること
料理とワインのリアレンジをしようか。グルメ漫画『美味しんぼ』に登場してから20年。この料理と相性の良いワインはなに? ソムリエの田崎真也さんから「ワインは料理に振りかける最後の調味料と神髓を伝授して頂き、日々実践と空想で楽しんでいます。その延長でワインの歴史にハマり込み、本も3冊出版してしまいました。」

② 講義から得られる実践知は?

まちづくりの現場に必須の政策企画立案スキル



PENTAS Magazine

Vol. 03

発行：2023年3月

参加大学

山梨県立大学

山梨大学

山梨英和大学

*

事業協働機関

山梨県

公益財団法人山梨総合研究所

公益財団法人やまなし産業支援機構

公益社団法人やまなし観光推進機構

公益財団法人山梨県国際交流協会

一般社団法人 Mt.Fuji イノベーションエンジン

株式会社タンザワ

萌木の村株式会社

昭和産業株式会社

*

お問い合わせ先

山梨県立大学 地域人材養成センター

〒400-0035

山梨県甲府市飯田 5-11-1

TEL. 055-225-5412

MAIL. cocr-pentas@yamanashi-ken.ac.jp

WEB. <https://www.pentas.yamanashi.jp/>

山梨大学 地域人材養成センター支援課

〒400-8510

山梨県甲府市武田 4-4-37

TEL. 055-220-8449

WEB. <https://hr.yamanashi.ac.jp>

山梨英和大学

〒400-8555

山梨県甲府市横根町 888

TEL. 055-223-6020

WEB. <https://www.yamanashi-eiwa.ac.jp/>



illustration: Yume Ichimura

PENTAS 公式 WEB サイト



PENTAS Facebook ページ

